

第 25 期業績のご報告

(2020 年 7 月 1 日～2021 年 6 月 30 日)

2021 年 9 月 吉日
日本システムバンク株式会社
代表取締役社長 野坂 信嘉

当事業年度における経済環境は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いていたものの、一部で弱さが増すこととなりました。

駐車場業界におきましては、感染症の感染拡大防止を目的とした外出自粛の影響により、全国的に時間貸し駐車場の稼働率が大きく低下するなど、厳しい事業環境となりました。

このような状況の中、当社は「社員及び関係者の安全確保」という基本方針の下、売上原価及び販管費の低減や新規投資の縮小などの取組みを実施し、可能な限り利益の確保に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高 5,964,166 千円（前事業年度比 93.0%）、営業損失 157,132 千円（前事業年度は 8,990 千円の営業利益）、経常損失 162,974 千円（前事業年度は 26,728 千円の経常損失）、当期純損失 422,980 千円（前事業年度は 26,548 千円の当期純利益）となりました。

事業区分別の業績は以下のとおりです。

【コインパーキング（以下CP）事業】

当社のCP事業は、主に、CPの運営事業と駐車場機器の販売・保守事業で構成されています。

CP運営事業におきましては、感染症の感染拡大の影響により、駐車場の稼働率が低下したため、駐車場の収益性が悪化しました。そのため、当社では、既存駐車場の売上原価の低減と厳選した新規駐車場の開設に取り組みました。既存駐車場については、採算が悪化した駐車場の撤去及びコストの見直しを徹底的に取り組みました。新規駐車場については、感染症の影響を受けやすい繁華街等ではなく、その影響を受けにくい郊外の住宅地等に重点的に開設を進めました。

駐車場機器の販売・保守事業におきましても、感染症の感染拡大の影響により、既存の駐車場の収益性が悪化しました。そのため、既存駐車場の収益改善に注力する得意先が多く、駐車場の新規開設を控える動きが散見され、駐車場機器の販売が落ち込みました。

以上の結果、売上高は、5,796,458 千円（前事業年度比 93.3%）となりました。

【プロパティマネジメント事業】

当事業年度においては、コストの見直し及び不要不急の投資を控え、利益の確保に努めました。その結果、売上高 162,060 千円（前事業年度比 82.8%）となりました。

事業別の売上高は次のとおりであります。

事業区別	売上高	前期売上高	前期比
コインパーキング事業	5,796,458千円	6,212,373千円	93.3%
プロパティマネジメント事業	162,060千円	195,841千円	82.8%
その他	5,647千円	6,313千円	89.5%
合計	5,964,166千円	6,414,528千円	93.0%